

1 自己評価及び外部評価票

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2070600115		
法人名	医療法人こまくさ会		
事業所名	グループホーム こまくさの森		
所在地	長野県諏訪市中洲豆田5924		
自己評価作成日	令和2年12月25日	評価結果市町村受理日	令和3年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2070600115-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市東中央通5丁目59番地1
訪問調査日	令和3年11月22日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

① 共同生活の中でご自身がご自身ができることの模索や今までの人生で習得してきたことを職員が支援し、まだできる、やれるという思いをもう一度感じられるように食事作りや畑作り等に力を入れている。
② 医療連携においては週1回の往診を実施している。ご本人・ご家族の意向ともすり合わせ、主治医で対応困難な場合は専門医の紹介を行い、地域全体での支援を心掛けている。
③ ご利用者の人生観を大切に、地域で行ってきたことやご家族での行事などを聞き取り、施設での行事に反映させている。
④ ご家族との連絡は綿密に行い、体調不良の前兆や事故(転倒など)等があった場合にも速やかに連絡をしている。身体状況の変化や環境の変化に伴いそのつど相談し、ご本人に合った環境作りをしている。

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

コロナ禍のため、地域との交流が途絶え、外出することもままならず、家族との面会でさえ制限していかざるを得なかったこの時期、このグループホームは、理念にも唱ってある「利用者本位」のサービスに立ち戻っていく機会ととらえ、これまでのケアのあり方などを見直してきた。
この原動力となってきたのが、新しく着任した管理者を中心としたメンバーである。利用者その人を良く知ろうとして今までいた住所を訪ねたり、これまで携った職業を詳しく調べたりして、利用者一人ひとりの詳しい「24時間暮らしのデーター」として記録し、介護計画やケアの実践に活かしてきていることが素晴らしい。これまでの実践と比べると、厳しく自己評価を下しているが、その方法に賛同する職員が多くいて、これからさらに充実していくグループホームであると考えられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名(嵯峨野)			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ○ ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいの ○ ③家族の1/3くらいの ④ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ○ ④ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ○ ④ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ○ ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	①大いに増えている ②少しずつ増えている ○ ③あまり増えていない ④全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ○ ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (11, 12)	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ○ ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ○ ④ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ○ ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	①ほぼ全ての利用者が ○ ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ○ ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ○ ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名（ 深草 ）			
項 目		取 り 組 み の 成 果 （該当する箇所を○印で囲むこと）	取 り 組 み の 成 果 （該当する箇所を○印で囲むこと）
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23, 24, 25）	☐ ①ほぼ全ての利用者の ☐ ②利用者の2/3くらいが ☒ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんど掴んでいない	☐ ①ほぼ全ての家族と ☐ ②家族の2/3くらいと ☒ ③家族の1/3くらいと ☐ ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18, 38）	☒ ①毎日ある ☐ ②数日に1回程度ある ☐ ③たまにある ☐ ④ほとんどない	☐ ①ほぼ毎日のように ☐ ②数日に1回程度 ☐ ③たまに ☒ ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☒ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない	☐ ①大いに増えている ☐ ②少しずつ増えている ☐ ③あまり増えていない ☒ ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36, 37）	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☒ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない	☐ ①ほぼ全ての職員が ☐ ②職員の2/3くらいが ☐ ③職員の1/3くらいが ☒ ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☒ ④ほとんどいない	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☒ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている （参考項目：30, 31）	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☒ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない	☐ ①ほぼ全ての家族等が ☐ ②家族等の2/3くらいが ☒ ③家族等の1/3くらいが ☐ ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☒ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9, 10, 19）		
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2, 20）		
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		
66	職員は、生き活きと働けている （11, 12）		
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有については、昼の打ち合わせの際に声に出して復唱するなどして周知に心がけているが、実践にはなかなかつながってきていない。	理念に掲げている中で、特に「利用者本位のサービス」を提供できることを重視しているが、これまで職員の作業優先の場合があった。昼の打ち合わせや「申し送りノート」を活用して、共通理解を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在新型コロナウイルスの影響もあり、地域社会との関りは全く持てていない。これまで一緒に行っていた買い物も職員が代行している。	コロナ禍のため、これまで行ってきたボランティアとの交流、職場体験の受け入れ、音楽会への参加などができなくなった。管理者は、今後は地域に声をかけ、どんど焼きや御柱など地域の祭りを通してつながりを深めたいと語ってくれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域社会との関りがなくなったため、活かすことができていない。以前は福祉大学の実習や高校生の福祉体験学習も行っていたが今年は行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス対策のため運営推進会議は書面での報告という形で行っており、話し合いは十分行われていない。	コロナ禍のため、事務局から運営推進会議のメンバー(広域連合や社会福祉協議会の職員、相談員、地区会長など)への書面での連絡が中心になっている。今後は、地区の民生委員の参加を依頼して、地区との関わりを深めたいと管理者は語っていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在外部との関りが全くなくなったため、事務局が電話で連絡を行っている。	事務局を通して市との連絡をとり、コロナ対策のための連携を図ってきた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「嵯峨野」では帰宅願望の強い方がいたため興奮状態になる夕方には玄関を施錠してきた。新型コロナウイルスのため外出できないことや寂しさの気持ちが強いのではとアセスメントを継続し、対応改善を図ってきた。	帰宅願望の強い利用者のために玄関の施錠をして対応してきたが、利用者の気持ちを考え、寂しさを紛らわすために好きな編み物・読み物などに目を向けさせることによって外に出たがらなくなってきた。現在、入院し退所している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については施設内研修を行い常に注意を払っている。職員同士で注意しているが直接言えないときは管理者へ報告してもらい、その経緯を聞き取りながら自己啓発できるよう注意している。		

グループホーム こまくさの森 嵯峨野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修は行っていない。現在は管理者のみで対応している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に面談を行い、その時に大まかな説明をし、実際の契約の時にさらに細かい部分まで丁寧に説明し、理解を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面談時や、電話での相談を受け付けており、対応内容やその後の様子などを随時伝えている。ご利用者の要望などは日々の生活の中から聞き出し、反映できるようにしている。	法人全体でコロナ対策として、ご利用者家族との面会は窓越しで室内電話機を使った面談に制限している。新型コロナウイルスの治療薬が利用できるまでは、この体制を継続するようにご家族に周知している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞き、管理者から法人の事務長へ報告している。その後のトップダウンが遅い場合があるので、現場に反映するまでに時間がかかっていることがある。	職員の意見箱を設置し、「嵯峨野」や「深草」のユニットごとのユニット会で話し合い、出された意見やなどを活かすようにしている。職員は、運営・教育、感染対策、行事・広報、接遇・尊厳の各委員会を分担し、クリスマスに向け利用者へ家族の写真をプレゼントしようなどと計画が進んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの実績に伴った給与体系にはなっていない面がある。やりがいも持てずにいる職員もいたが、徐々に職場環境の改善がされてきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会は与えてもらえるが、新型コロナウイルスのために外部研修自体の開催がなく、機会が減った。3年以上の職員には介護福祉士の受験を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスのため、同業者と交流する機会がなくなっている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは不安の軽減目的として、職員から自己紹介するよう努めている。その後もご本人の意見を聞きながら生活のリズムを掴むようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にはご利用者本人の気持ちや状態などを聞き、それに対して施設で行えることや新しい試みについて知らせ、一緒により良い環境を考えていくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームへの入所相談の際、ご本人やご家族の希望を聞き、まずは法人内の施設において必要な支援ができる施設を相談させてもらっている。対応できないときは外部と連携し相談を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の中に仕事は職員がするものだと思う方がいらっしやり、他のご利用者を怒りつけるため実質的な役割作りができていなかったが、現在、他施設に入居したため改善されている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とはご本人について綿密に相談し、一緒に考えるよう努めている。現在は面会に制限があるが、距離を置いた面会や電話を使った対応などに協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は新型コロナウイルスのため外出や面会に制限をしながらの対応となっている。	コロナ禍のため、現在は家族との面会さえ制限されている。この中でも、家族にはクリスマスプレゼントとして写真を送ったり、知り合いには年賀状を出したりして、関係が途切れないように働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事などのテーブル席を工夫したり、歌のレクリエーションに力を入れたりして、ご利用者同士が集まり、話し合える環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームから退去された方にも相談窓口を開き、相談に乗っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方については十分把握できていないが、日々の生活の中や今までの暮らしぶり、ご家族からの話から推測し対応している。職員本位にならないように気を配っている。	利用者その人を知るという観点から、まずは、これまで住んでいた所に利用者担当の職員が行ってみたい、携ってきた仕事などを調べたりしている。また、暮らし方・意向や好み・自分でできること・コメント・サポートが必要なことを利用者の基本的な資料として「24時間暮らしのデーター」に残している。そして、毎日、「生活サポート記録」に支援時の様子などを記録し、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談の際やその後のご家族との面談時に、今までどういった生活をしてきたかを伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「24時間暮らしのデーター」を活用しながら、一人ひとりの暮らし方についての現状把握に努めている。月1回のユニット会議を開いて話し合いたいが、新型コロナウイルスのため、毎月は実施できないので、昼の打ち合わせなどを活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人との日々の会話や、ご家族との面談の際の家での生活や工夫を聞き取りなどから、把握するよう心掛けている。得た情報に関しては「24時間暮らしのデーター」や「生活サポート記録」に記録し、ケアプラン作成の際に活用している。	「24時間暮らしのデーター」を基に、利用者担当の職員とともに、介護計画を作成している。そして、利用者の「サポート経過」によって目標について評価し、その評価と生活の変化等をモニタリングして、現状に即した介護計画ができるようにサービス担当者会議で検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「24時間暮らしのデーター」に即した「生活サポート記録」を使用し、日々のケアの様子やその時の様子などを記録し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の中には農家をやっていた方が多かったため、中庭を改造し畑を作って野菜を栽培した。今までの枠にとらわれないようないろいろなアイデアを出せる環境作りを心がけている。		

グループホーム こまくさの森 嵯峨野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ禍のため、これまでのように地域に外出したり、地域のボランティアに訪問してもらったりすることができていないが、コロナ禍後に備えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の医師により、週に1回の往診がある。専門性が必要な場合には専門医を紹介し受診している。法人内の医院への受診はグループホームで対応しているが、その他の病院への受診はご家族で対応していただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子を看護師に相談し、そのつど指示を仰ぐようにしている。判断に困る場合にはすぐに主治医へ連絡し、判断してもらうようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係医療機関のソーシャルワーカーと連携し、入院前の様子や入院中の様子、退院に向けての調整や退院後のフォロー体制を相談しながら行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にグループホームで行えるターミナルケアについて説明を行っているが、実際に体調不良になった際にも再度説明し、ご家族の意向に添えない際には他施設を紹介する等のフォローを行っている。	利用者に医療措置が必要か必要でないかでターミナルケアを説明している。こうしたターミナルケアの方針を基に、去年まで利用者1人の看取りを行い、その対応を検討してきている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてはマニュアルを用意しているが、体調不良のご利用者がある際にはそのつど様子をみて対応を伝達している。応急手当等の訓練については十分行っていないので、実践力に関しては職員間に格差がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年に2回行っているが、地域との連携については十分ではない。地域の避難場所等など、最寄りの場所以外にも把握していく必要がある。	防災訓練は、近接の同法人の介護老人保健施設と共同で行っている。令和元年の台風19号災害では付近が水に浸かった場面があった。グループホームは平屋建ての施設なので、水害の時の避難を考えていく必要がある。	ハザードマップなどを活用して、水害の場合の対策を行っていきたい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の今までの人生や性格を考慮し、職員本位のサービスにならないよう努めている。排泄の声掛けなどはご本人の耳元で対応し、尊厳の保持に努めている。	利用者は人生の先輩であるとして、上から目線で話しかけたり、「ちゃん」付で呼んだりしないことや利用者に対応する時は、笑顔でゆっくり話しかけたりすることを大切にしている。特に、トイレへの誘導や失禁の場合の対応など、利用者の尊厳を大事にした支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「いかがですか?」「どういたしましょう?」等、ご本人が自己決定できる声掛けを行うよう努めている。おやつ等は皿で提供し、欲しい分だけ取ってもらえるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの意向に沿って支援を行うよう心掛けているが、新型コロナウイルスのため、希望通り外出ができないことがあり、十分添えていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を一緒に選んだり、身だしなみを整えたりしてから居室を出るように支援している。現在出張美容の訪問がないが、美容師経験のある職員がいるため、ご家族と相談の上で対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者が食事準備に関わると怒りだす利用者がいたが、現在は他の施設に入居したため、職員と一緒に食事の準備ができるようになってきた。利用者が一番楽しみにしている行事食は、食事制限をしないで十分楽しんで食べることができるよう支援している。	「嵯峨野」ユニットでは、車椅子利用者が1人、介護度が1～3までが7人であるため、職員と一緒に準備や後片付けができ、楽しく会食ができています。また、毎日体重測定をして、楽しみの行事食には食事制限なしで満足するまで食事してもらっているようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量を記録し、毎日確保できているかを常に視野に入れながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の口腔ケアの習慣に合わせた支援を行っている。週に1回は義歯洗浄剤を使用し、清潔の保持に努めている。現在新型コロナウイルスのため、歯科と眼科は家族との受診となった。		

グループホーム こまくさの森 嵯峨野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿パターンを把握し、なるべく失禁しないようにトイレへの誘導や自分で付け替えられるようなパットを検討したり、上げ下げしやすいリハビリパンツや布パンツを検討したりして、排泄の失敗を減らすよう支援している。	利用者の排尿・排泄のパターンを把握し、布パンツだけ、リハビリパンツだけ、リハビリパンツとパットというように、失禁しても快適なパンツを利用するようにしている。工夫した体操や乳酸菌に摂取によって便秘の予防に留意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らず、食事に食物繊維や乳酸菌を取り入れ、苦痛なく排便が行えるように医師・看護師と相談しながら行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の入りたい時間を相談し、なるべくそれに沿った対応を心がけている。基本的に入浴する曜日は設定しているが、その日の気分で入れるように努めている。	週2回、利用者と相談して順番に入浴できるようにしている。ほとんど利用者は自力で入浴できるので、職員は見守り、足りないところを手助けし、安全な入浴を支援している。「嵯峨野」ユニットでは、入浴を拒む利用者には、足浴から始めて徐々に馴れてもらった事例を語ってくれた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室はいつでも休めるようにしてあり、リビングでウトウトしていた際には声をかけ誘導している。畳スペースやソファなども活用し、くつろげる場所を増やすようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書をファイルにして、何の薬を飲んでいて、どのような効果や副作用があるかを見やすいようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者のできることをアセスメントし、役割づくりをしたいと考えているが、まだ十分でない。趣味やこれまでやってきた仕事、嗜好品などをご本人、ご家族に伺いながら用意し、対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在新型コロナウイルスのため、グループホームの敷地内の散歩と車でのドライブのみを行っており、人の集まる場所へは極力行かないようにしている。	コロナ禍のため、外部の人との接触は極力避けるようにして散歩や外出を計画してきた。グループホーム内の敷地の周りを散歩したり、庭を改造して作った畑で野菜作りをしたり、車の中から花見をしたり、紅葉狩りをしたりして、利用者を楽しんでもらっている。	

グループホーム こまくさの森 嵯峨野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者ごとに財布を用意し、お小遣いを預かり、その中でご本人が希望した物を購入している。現在新型コロナウイルスのため、一緒に買い物に出られないので、職員が対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の使える方は持参している。また、ご本人から希望があればご家族へ電話をかけたりできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに季節の花を飾ったり、音楽やテレビの音量などに気を配ったりして、くつろげる雰囲気の中でみんなが楽しめる環境など、その時々に合わせて共用空間作りをしている。	ユニット名になっているように、リビング、畳スペース、玄関、廊下は京都の和風で落ち着いた雰囲気が感じられるグループホームである。移動がたやすくできるように、つかまりやすく、もたれかかることができる手すりが設けられている。また、中庭には、新しくテラスが設置され、ちょっとしたアウトドア風なこともできるようになった。そして、二酸化炭素測定器も備えられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人でくつろぎたい方や仲のいい方同士で一緒になれるよう配席に留意している。特に席は決めずにいるが、ご利用者同士で声をかけ合って席を移動したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談し、自宅から思い思いの物を持参していただいたり、活動の中で作ったものを飾ったりして、それぞれの部屋作りをしている。	利用者一人ひとりの思いがこもった物を持参して、これまでと変わらぬような雰囲気で過ごせるようになっている。こたつでくつろいだり、仏壇の前でお祈りしたりして、居心地よく過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の使いやすいこと、こだわりのあることなどを調べ、表示や明るさ、使いやすさを考慮して環境を変えている。		

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有については、昼の打ち合わせの際に声に出して復唱するなどして周知に心がけているが、実践にはなかなかつながってきていない。	理念に掲げている中で、特に「利用者本位のサービス」を提供できることを重視しているが、これまで職員の作業優先の場合があった。昼の打ち合わせや「申し送りノート」を活用して、共通理解を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在新型コロナウイルスの影響もあり、地域社会との関りは全く持てていない。これまで一緒に行っていた買い物も職員が代行している。	コロナ禍のため、これまで行ってきたボランティアとの交流、職場体験の受け入れ、音楽会への参加などができなくなった。管理者は、今後は地域に声をかけ、どんど焼きや御柱など地域の祭りを通してつながりを深めたいと語ってくれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域社会との関りがなくなったため、活かすことができていない。以前は福祉大学の実習や高校生の福祉体験学習も行っていたが今年はいっていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス対策のため運営推進会議は書面での報告という形で行っており、話し合いは十分行われていない。	コロナ禍のため、事務局から運営推進委員会委員会のメンバー(広域連合や社会福祉協議会の職員、相談員、地区会長など)への書面での連絡が中心になっている。今後は、地区の民生委員の参加を依頼して、地区との関わりを深めたいと管理者は語っていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在外部との関りが全くなくなったため、事務局が電話で連絡を行っている。	事務局を通して市との連絡をとり、コロナ対策のための連携を図ってきた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については研修や、離脱リスクがあるときもアセスメントを行い、なぜ外に行きたいのかを考え対応しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「深草」では、帰宅願望の利用者が玄関の鍵を外し、施設の外に出て、近くの会社に迷ってお世話になった事例があった。この事例を受け、利用者の実態を踏まえながら、午後4時から次の日の午前9時までは施錠することになった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については施設内研修を行い常に注意を払っている。職員同士で注意しているが直接言えないときは管理者へ報告してもらい、その経緯を聞き取りながら自己啓発できるよう注意している。		

グループホーム こまくさの森 深草

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修は行っていない。現在は管理者のみで対応している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に面談を行い、その時に大まかな説明をし、実際の契約の時にさらに細かい部分まで丁寧に説明し、理解を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面談時や、電話での相談を受け付けており、対応内容やその後の様子などを随時伝えている。ご利用者の要望などは日々の生活の中から聞き出し、反映できるようにしている。	法人全体でコロナ対策として、ご利用者家族との面会は窓越しで室内電話機を使った面談に制限している。新型コロナウイルスの治療薬が利用できるまでは、この体制を継続するようにご家族に周知してもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞き、管理者から法人の事務長へ報告している。その後のトップダウンが遅い場合があるので、現場に反映するまでに時間がかかっていることがある。	職員の意見箱を設置し、「嵯峨野」や「深草」のユニットごとのユニット会で話し合い、出された意見やなどを活かすようにしている。職員は、運営・教育、感染対策、行事・広報、接遇・尊厳の各委員会を分担し、クリスマスに向け利用者へ家族の写真をプレゼントしようなどと計画が進んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの実績に伴った給与体系にはなっていない面がある。やりがいも持てずにいる職員もいたが、徐々に職場環境の改善がされてきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会は与えてもらえるが、新型コロナウイルスのために外部研修自体の開催がなく、機会が減った。3年以上の職員には介護福祉士の受験を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスのため、同業者と交流する機会がなくなっている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは不安の軽減目的として、職員から自己紹介するよう努めている。その後もご本人の意見を聞きながら生活のリズムを掴むようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にはご利用者本人の気持ちや状態などを聞き、それに対して施設で行えることや新しい試みについて知らせ、一緒により良い環境を考えていくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームへの入所相談の際、ご本人やご家族の希望を聞き、まずは法人内の施設において必要な支援ができる施設を相談させてもらっている。対応できないときは外部と連携し相談を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の中に仕事は職員がするものだと思う方がいらっしやり、他のご利用者を怒りつけるため実質的な役割作りができていなかったが、現在、他施設に入居したため改善されている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とはご本人について綿密に相談し、一緒に考えるよう努めている。現在は面会に制限があるが、距離を置いた面会や電話を使った対応などに協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は新型コロナウイルスのため外出や面会に制限をしながらの対応となっている。	コロナ禍のため、現在は家族との面会さえ制限されている。この中でも、家族にはクリスマスプレゼントとして写真を送ったり、知り合いには年賀状を出したりして、関係が途切れないように働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事などのテーブル席を工夫したり、歌のレクリエーションに力を入れたりして、ご利用者同士が集まり、話し合える環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームから退去された方にも相談窓口を開き、相談に乗っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方については十分把握できていないが、日々の生活の中や今までの暮らしぶり、ご家族からの話から推測し対応している。職員本位にならないように気を配っている。	利用者その人を知るという観点から、まずは、これまで住んでいた所に利用者担当の職員が行ってみたり、携ってきた仕事などを調べたりしている。また、暮らし方・意向や好み・自分でできること・コメント・サポートが必要なことを利用者の基本的な資料として「24時間暮らしのデーター」に残している。そして、毎日、「生活サポート記録」に支援時の様子などを記録し、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談の際やその後のご家族との面談時に、今までどういった生活をしてきたかを伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「24時間暮らしのデーター」を活用しながら、一人ひとりの暮らし方についての現状把握に努めている。月1回のユニット会議を開いて話し合いたいが、新型ウィルスのため、毎月は実施できないので、屋の打ち合わせなどを活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人との日々の会話や、ご家族との面談の際の家での生活や工夫を聞き取りなどから、把握するよう心掛けています。得た情報に関しては「24時間暮らしのデーター」や「生活サポート記録」に記録し、ケアプラン作成の際に活用している。	「24時間暮らしのデーター」を基に、利用者担当の職員とともに、介護計画を作成している。そして、利用者の「サポート経過」によって目標について評価し、その評価と生活の変化等をモニタリングして、現状に即した介護計画ができるようにサービス担当者会で検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「24時間暮らしのデーター」に即した「生活サポート記録」を使用し、日々のケアの様子やその時の様子などを記録し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の中には農家をやっていた方が多かったため、中庭を改造し畑を作って野菜を栽培した。今までの枠にとらわれないようないろいろなアイデアを出せる環境作りを心がけている。		

グループホーム こまくさの森 深草

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ禍のため、これまでのように地域に外出したり、地域のボランティアに訪問してもらったりすることができていないが、コロナ禍後に備えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の医師により、週に1回の往診がある。専門性が必要な場合には専門医を紹介し受診している。法人内の医院への受診はグループホームで対応しているが、その他の病院への受診はご家族で対応していただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子を看護師に相談し、そのつど指示を仰ぐようにしている。判断に困る場合にはすぐに主治医へ連絡し、判断してもらうようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係医療機関のソーシャルワーカーと連携し、入院前の様子や入院中の様子、退院に向けての調整や退院後のフォロー体制を相談しながら行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にグループホームで行えるターミナルケアについて説明を行っているが、実際に体調不良になった際にも再度説明し、ご家族の意向に添えない際には他施設を紹介する等のフォローを行っている。	利用者に医療措置が必要か必要でないかでターミナルケアを説明している。こうしたターミナルケアの方針を基に、去年まで利用者1人の看取りを行い、その対応を検討してきている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてはマニュアルを用意しているが、体調不良のご利用者がある際にはそのつど様子をみて対応を伝達している。応急手当等の訓練については十分行っていないので、実践力に関しては職員間に格差がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年に2回行っているが、地域との連携については十分ではない。地域の避難場所等など、最寄りの場所以外にも把握していく必要がある。	防災訓練は、近接の同法人の介護老人保健施設と共同で行っている。令和元年の19災害では付近が水に浸かった場面があった。グループホームは平屋建ての施設なので、水害の時の避難を考えていく必要がある。	ハザードマップなどを活用して、水害の場合の対策を行っていききたい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の今までの人生や性格を考慮し、職員本位のサービスにならないよう努めている。排泄の声掛けなどはご本人の耳元で対応し、尊厳の保持に努めている。	利用者は人生の先輩であるとして、上から目線で話しかけたり、「ちゃん」付で呼んだりしないことや利用者に対応する時は、笑顔でゆっくり話しかけたりすることを大切にしている。特に、トイレへの誘導や失禁の場合の対応など、利用者の尊厳を大事にした支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「いかがですか?」「どういたしましょう?」等、ご本人が自己決定できる声掛けを行うよう努めている。おやつ等は皿で提供し、欲しい分だけ取ってもらえるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの意向に沿って支援を行うよう心がけているが、新型コロナウイルスのため、希望通り外出ができないことがあり、十分添えていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を一緒に選んだり、身だしなみを整えたりしてから居室を出るように支援している。現在出張美容の訪問できないが、美容師経験のある職員がいるため、ご家族と相談の上で対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、洗い物など利用者のできる力を活かすように支援している。そして、どうしたら持てる力を発揮できるかを常に考えながら取り組むようにしている。利用者が一番楽しみにしている行事食は、食事制限をしないで十分楽しんで食べることができるように支援している。	「深草」ユニットでは、車椅子利用者が1人、介護度が1～3までが9人であるため、職員と一緒に準備や後片付けができ、楽しく会食ができています。また、毎日体重測定をして、楽しみの行事食には食事制限なしで満足するまで食事してもらおうようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量を記録し、毎日確保できているかを常に視野に入れながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の口腔ケアの習慣に合わせた支援を行っている。週に1回は義歯洗浄剤を使用し、清潔の保持に努めている。現在新型コロナウイルスのため、歯科と眼科は家族との受診となった。		

グループホーム こまくさの森 深草

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿パターンを把握し、なるべく失禁しないようにトイレへの誘導や自分で付け替えられるようなパットを検討したり、上げ下げしやすいリハビリパンツや布パンツを検討したりして、失禁パターンから支援するようにしている。	利用者の排尿・排泄の様子を見て、布パンツだけ、リハビリパンツだけ、リハビリパンツとパットというように、失禁しても快適なパンツを利用するようにしている。工夫した体操や乳酸菌に摂取によって便秘の予防に留意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らず、食事に食物繊維や乳酸菌を取り入れ、苦痛なく排便が行えるように医師・看護師と相談しながら行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の入りたい時間を相談し、なるべくそれに沿った対応を心がけている。基本的に入浴する曜日は設定しているが、その日の気分で入れるように努めている。	週2回、利用者と相談して順番に入浴できるようにしている。ほとんど利用者は自力で入浴できるので、職員は見守り、足りないところを手助けし、安全な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室はいつでも休めるようにしてあり、リビングでウトウトしていた際には声をかけ誘導している。畳スペースやソファなども活用し、くつろげる場所を増やすようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書をファイルにして、何の薬を飲んでいて、どのような効果や副作用があるかを見やすいようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者のできることをアセスメントし、役割づくりをしている。また、趣味やこれまでやってきた仕事、嗜好品などを、ご本人、ご家族に伺いながら用意し、対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在新型コロナウイルスのため、グループホームの敷地内の散歩と車でのドライブのみを行っており、人の集まる場所へは極力行かないようにしている。	コロナ禍のため、外部の人との接触は極力避けるようにして散歩や外出を計画してきた。グループホーム内の敷地の周りを散歩したり、庭を改造して作った畑で野菜作りをしたり、車の中から花見をしたり、紅葉狩りをしたりして、利用者を楽しんでもらっている。	

グループホーム こまくさの森 深草

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者ごとに財布を用意し、お小遣いを預かり、その中でご本人が希望した物を購入している。現在新型コロナウイルスのため、一緒に買い物に出られないので、職員が対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の使える方は持参している。また、ご本人から希望があればご家族へ電話をかけたりできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに季節の花を飾ったり、音楽やテレビの音量などに気を配ったりして、くつろげる雰囲気でみんなが楽しめる環境など、その時々に合わせて共用空間作りをしている。	ユニット名になっているように、リビング、畳スペース、玄関、廊下は京都の和風で落ち着いた雰囲気が感じられるグループホームである。移動がたやすくできるように、つかまりやすく、もたれかかることができる手すりが設けられている。また、中庭には、新しくテラスが設置され、ちょっとしたアウトドア風なこともできるようになった。そして、二酸化炭素測定器も備えられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人でくつろぎたい方や仲のいい方同士で一緒になれるよう配席に留意している。特に席は決めずにいるが、ご利用者同士で声をかけ合って席を移動したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談し、自宅から思い思いの物を持参していただいたり、活動の中で作ったものを飾ったりして、それぞれの部屋作りをしている。	利用者一人ひとりの思いがこもった物を持参して、これまでと変わらぬような雰囲気で過ごせるようになっている。こたつでくつろいだり、仏壇の前でお祈りしたりして、居心地よく過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の使いやすいこと、こだわりのあることなどを調べ、表示や明るさ、使いやすさを考慮して環境を変えている。		